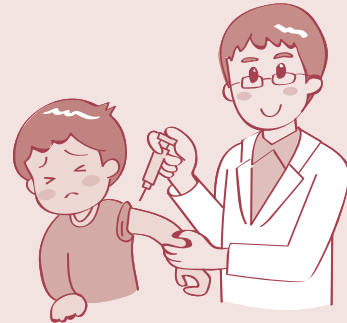


予防接種について

予防接種とは、ウイルスや細菌に対するワクチンを接種することで、治療が難しかったり、重い合併症を伴うような感染症を予防したり、症状を軽くしたりする方法です。日本でも、乳幼児へのヒブワクチンや肺炎球菌ワクチンの定期接種が始まり、重い後遺症を伴ったり、命が脅かされたりすることもある細菌性髄膜炎の発症が減りました。



健康
通信

常陸大宮済生会病院

小児科部長
佐藤 未織 先生

近年ワクチンの種類が増え、同時接種を行う病院も増えています。同時接種とは、2種類以上の予防接種を同時に行うものです。生ワクチンを含む複数のワクチンを同時に接種しても、それぞれのワクチンは有効に働き、副反応の頻度が上がることはありません。子どもたちに同時接種を行う利点は、ワクチンで予防される感染症から早期に守られること、保護者の経済的・時間的負担が軽くなることがあげられます。

予防接種をすることでワクチンを接種する本人はもちろん、周りの人をそれらの感染症から守ることができます。特に感染症から守らなくてはいけないのが、ワクチンを受ける年齢に達していない子どもたち、妊婦、ワクチンを受けたくても病気のために受けられない人、体力の低下した高齢者です。

例えば妊婦が風疹に感染すると、へその緒を通じておなかの赤ちゃんも風疹に感染し、生まれつき目が見えなかったり、耳が聞こえなかったり、心臓の壁に穴が開くなどの障害を残す「先天性風疹症候群」を発症することがあります。先天性風疹症候群を予防するためには、周囲が風疹の予防接種をきちんと行い、地域で風疹を流行させないことが大切です。

また、予防接種の副反応による健康被害はまれですが、万が一起こった場合には予防接種健康被害救済制度（医療費などの給付制度）があります。

予防接種は“自分のため、周りのみんなのため”に行います。ワクチンについて正しい知識を持ち、接種スケジュールなど不明な点があれば、近隣の小児科、かかりつけ医、保健センターなどに相談しましょう。